

神奈川県立秦野支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和6年度 秦野支援学校 第2回 学校運営協議会
開催日時	令和6年7月30日 9時30分～11時30分
開催場所	秦野支援学校 落合校舎2階会議室
出席者	運営協議会委員(本校校長含む) 9名 ※欠席者1名 事務局教職員 13名
会議資料	第2回学校運営協議会次第 学校運営協議会 部会の位置づけ について、 「ともに進むサポーターズ部会・みなで育てるサポーターズ部会」資料
議事録	<p>1、学校長挨拶 今回は、ともに進むサポーターズ部会・みなで育てるサポーターズ部会についてみなさんからご指摘をいただきたい。</p> <p>2、協議① 「ともに進むサポーターズ部会・みなで育てるサポーターズ部会」の取組について (ともに進むサポーターズ部会) 末広小、東小、東中との交流等の取組、居住地交流の実施状況の報告 (みなで育てるサポーターズ部会) 地元の農業指導講師さんから指導を受けての農園芸班の活動、環境整備班による地域清掃、F末広のエコキャップ回収、湘南ベルマーレとのサッカー教室による交流、学習支援ボランティア・市内の大学生ボランティアの活用、近隣の店舗・公民館・銀行等での作品展示等についての報告。 ⇒ 持続可能な活動をしていきたい。</p> <p>○ 質問、意見等 ・地域や各学校への広報や保護者への案内はどのように行っているか。 ⇒ 巡回相談のチラシを地域の小・中学校、高等学校に配付している。作品展示は保護者にプリントでお知らせしている。 ・居住地交流は、児童生徒が、特別支援学校に入学していなければ通っていた地域の学校との交流であるが、センター的機能としての役割もある。 ・交流が子ども達のストレスのならないよう、楽しかったとなって次に繋がるように。 ・居住地交流で小学生は順調にできているが、中学生が増えていない。できるようになるとよい。中学校年代で居住地交流になぜ参加しない生徒が多いかを学校としても分析してほしい。 ・中学校支援級では秦野市内の働いている方との交流を行っているところもある ・自治会の中でも交流できる場面を作って拡げていけるとよい。</p> <p>3、協議② 各部門・課程の取組について (各部門・課程から、動画を用いての1学期の取組の報告) B課程：感染対策を行いながら授業を行っている。体育館での体育。ベッドサイドとオンラインで繋ぎ、同じ活動に参加をしている。スイッチ教材を使って、スイッチを押すとバチが動くなど教材の工夫を行っている。 Cかもめ：理科の実験、漢字の練習、調べ学習、アイロンビーズで作品作りなど行った。BG部門との交流や遠足も出来た。入院期間等でそれぞれの児童生徒による学習の違いがある。2～3カ月の入院の方が多い。 D弘済：個別学習、グループ学習を行っている。スクールバスで落合校舎体育館に来ての授業、中井中央公園への校外学習、学園外の畑で栽培等も行った。書字、清掃、劇等それぞれに合った学習の取組を行っている。 E高等部：職業自立の授業では、環境整備班での清掃技能検定の練習、木工班での安全に気をつけて木工機械の扱い、ハンドメイド班での作品作り、農園芸班で育てた野菜の給食提供などの取組を行った。 F末広：からだづくり、個別の課題、音楽、体育などの授業に日常的に取り組んでいる。洗濯を干す練習雨の日に合羽を着て歩く練習等も行った。地域に出での活動を行っている。 G部門：歩行練習、タブレット端末や視線入力装置の活用、神奈川病院の売店での買物学習、係活動等を行った。E高等部の生徒と一緒に実習も行った。医療的ケアも行いながら、身辺自立に向けての取組を行っている。</p> <p>○ 質問、意見等 ・スイッチ教材等は企業などが作ってくれるものなのか？ ⇒ 100円均一やホームセンターで材料を購入して教員が自作している。児童生徒の得意な動きに合わせてスイッチの設定などを行っている。 ・住民、地域に支援学校をPRして行ってほしい。まずはチャレンジをする。 ・参観日で見ると子どもの様子とは違う様子が動画から見られた。他の親御さんも見たいのではないだろうか。 ・児童生徒さん一人ひとりと向き合っている動画でした。先生方お身体気をつけていただきたい。 ・できることから業務改善を進めていただきたい。</p> <p>4、学校長挨拶 学校として地域にどのように出ていくか、地域の方、福祉、企業の視点から多くのヒントを頂けた。ありがとうございました。</p>